

海外支部長会議を開催

法人・教学・学員会が一体となり世界を考える

中央大学学員会は、母校の興隆と発展に寄与することを目的に活動し、全世界に支部を広げています。輝ける未来を創造するために勉学やスポーツに励む母校の学生を応援し、また父母連絡会を中心とした父母の皆様とも相携えて、中央大学を盛り立てていこうと日夜奮闘しています。5月15日（金）には、毎年行っている全国支部長会議に先立ち、海外支部長会議を開催し、グローバル・ネットワークのさらなる強化を図りました。



グローバル・ネットワークの強化



大学役員も参加し情報交換

学員会では毎年、年次・地域・職域の各支部長が参集し、情報交換と親睦を

深める場として全国支部長会議を実施しています。今年はそのに加え、母校のグローバル化の取り組みに呼応し、また世界に広がる白門ネッ

トワークをさらに強化するため、海外支部の支部長・幹事長らが一堂に会しました。

会議には、大学から国際センター所長の武石智香子副学長、大村雅彦常任理事、松丸和夫常任理事、林勘市常任理事も出席し、ミーティング形式にて行いました。

現在学員会には16の海外支部がありますが、申請中の支部も含め17支部・白門会の支部長・幹事長、また大学関係及び学員会役員を交え、総勢55人での会議となりました。

アジアの中大、世界の中大に向かって

海外支部長会議に参加した海外支部の支部長・幹事長からは、「学生が中大であることを誇りとして羽ばたける環境を作ってあげるべき」（モンゴル支部）、「今の時代のニーズはやはりグローバル化。具体的な一歩をどうするかということから始めるのがいいのでは」（インド白門会）、「お世話になった中大に還元したい。ぜ

ひ私たちの経験値やつながりを使ってもらえれば」（ロンドン支部）、「海外にいて痛感するのは中大の知名度の低さ。もっとPR情報をいただければ、宣伝は私たちが担当します」（台湾白門会）など、海外にいるからこそその強みを活かし、アジアの中大、世界の中大となるため母校に貢献していきたいという意見が目立ちました。



各海外支部からさまざまな意見が寄せられた

全国支部長会議 パネルディスカッションを実施

5月15日（金）、海外支部長会議に続いて行われた全国支部長会議では、「我が支部の活動と誇り」と題したパネルディスカッションを実施しました。現在238ある学員会支部の中から、めざましい活躍を見せる

年次・地域・職域支部の支部長・幹事長等がパネラーとして登壇。若手学員の活躍や、学生の就職支援、支部会員増強のための施策など、さまざまな面から支部を盛り上げるためのポイントが語られました。



支部活動の要点や具体例を議論